

# 広報九州



令和5年6月10日  
(2023年)  
No.1816

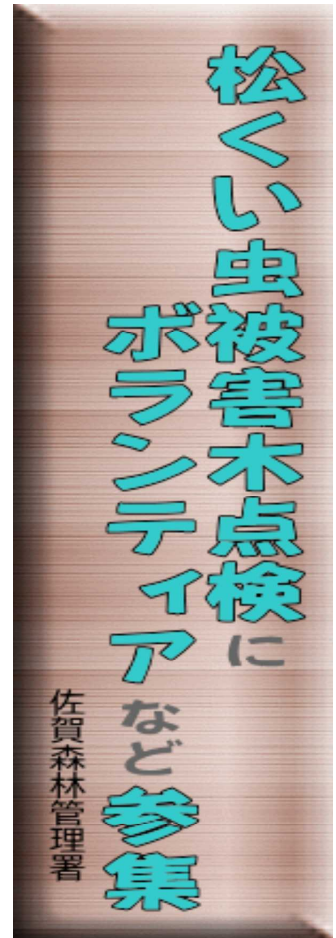
九州森林管理局

〒860-0081  
熊本市西区京町本丁2-7  
IP電話: 050-3160-6600(代表)  
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>



猪島署長の挨拶

5月11日、虹の松原及び鏡山（唐津市）において、佐賀県森林病害虫等防除連絡協議会主催による「松くい虫被害木の点検」が令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止されていましたが、4年振りに開催され佐賀県、唐津市、唐津南高校、NPO法人KANNE、ボランティア



ア団体等、佐賀森林管理署から総勢49名が参加しました。佐賀森林管理署からは、猪島明久署長をはじめ5名が参加しました。



開会式の様子

はじめに、虹の松原東の浜海浜公園（野外ステージ）に集合して開会式が行われ、同協議会の吉田会長から「虹の松原は予防散布と駆除対策の効果が発揮されている。近年の被害木の推移を見ると低水

準に抑えられているが、被害木の枯死率は80%と高く、1本でも減らしたい。本日の点検で被害木を探すことでまん延防止に繋がる」と挨拶がありました。

つづいて、唐津市の脇山副市長から「唐津市のシンボルである虹の松原は貴重な財産。この松原を保全するため多くのボランティアの支援をいただいている。この松原を後世に大切に引き継いで行きたい」と挨拶がありました。

被害木点検に入る前に、吉田同協議会会長からクロマツが枯れるメカニズムや予防対策、松くい虫被害木を放置すると被害が拡大するため駆除対策が重要であること



吉田会長から松くい虫のメカニズムを説明



散布前日の佐賀県、唐津市との打合せ

5月23日早朝、佐賀森林管理署（実施本部長・猪島明久署長）で



の説明を受け、虹の松原内は5班編成、鏡山1班編成で目視によりクロマツの葉が赤く変色していないかを見て回り、変色した木を発見した際は白テープを木の幹に巻いて表示しました。点検の集計結果、641本の被害木（被圧木を含む）を確認しました。  
当署では、今回の被害木点検によって現状が把握でき、今後の保全管理に取り組みうえで貴重なデータとなりました。

は、唐津市の虹の松原国有林（散布面積208ヘクタールのうち約143ヘクタール）で、関係行政機関、地元団体などの協力を得て、松くい虫被害を防止するためヘリコプターから薬剤を散布しました。（人家、宿泊施設、保育園周辺等約65ヘクタールは15日、16日、17日の3日間で地上散布を実施）  
当日は、当署職員のほか佐賀県、唐津市、唐津警察署、地元漁協等の協力の下、本部のほか19地点に担当者を配置し、県道等の交通規制や風向・風速の計測を行い、5



ヘリコプターによる空中散布の様子



散布前日の確認飛行の打合せ



散布前日の確認飛行

時15分に最初のフライトを開始し11回に分けて散布しました。松くい虫被害（マツ材線虫病）の防除は、マツノザイセンチュウ

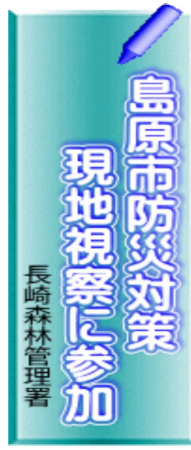
を運ぶマツノマダラカミキリを除くことを目的として行い、羽化するこの時期に年1回実施し、被害のまん延を防止します。



地上散布の様子

「虹の松原」の松くい虫被害は、平成4年度に2,334本の被害が確認されましたが、以降は減少しており、過去5年間の平均では約300本に抑えられています。

当署では、国指定の特別名勝である虹の松原を保全することは重要な課題であると考えています。今後も、松原の公益的機能の役割と景観保持のため佐賀県、唐津市、ボランティア団体、地元各団体や地域住民と連携して「『白砂青松』虹の松原の再生・保全」に取り組んでいくこととしています。



5月12日、長崎県島原市において、国・県の出先機関、警察、消防の防災関係8機関から44名が参加し、防災対策現地視察が開催されました。

この視察は島原市が主催しており、梅雨入りを前に防災関係機関による危険箇所の現地視察を行い、



防災関係機関の参加者

災害発生時の迅速な連携と対応が出来るよう毎年この時期に行われているものです。

当日は、杉谷公民館において、

関係機関の防災対策取組状況の説明を行い、当署からは、眉山等の治山事業について吉田幸一森林土木指導官がドローンで撮影した各溪流の映像をもとに、令和4年度の整備状況、令和5年度に行う治山事業、眉山観測システム業務、降雨による土砂災害シミュレーションについて説明を行いました。

その後、眉山管内に場所を移し、今年度実施する航空実播工散布箇所の説明や近年の土砂移動状況等の説明を行いました。

古川隆二郎島原市長からは「国・県の取組で現状は安心であると感じたが、想定外のことでも起きうる。今後ともよろしくお願いした



関係機関の取組状況の説明



防災関係機関による現地視察

い」と治山事業の取組について御礼の言葉がありました。長崎署では、引き続き地域住民の安全・安心のために各関係機関、地域住民との連携を図り、情報の受発信を強化してまいります。



5月15日、雲仙普賢岳の溶岩ドーム「平成新山」(1483m)において九州大学地震火山研究センターと島原市主催の「平成新山防災視察登山」が開催されました。



平成新山へ登る参加者

この防災視察登山は、火口周辺に形成された溶岩ドームの現状を関係機関で共有するため毎年春と秋に行われており、今回は関係機関等から79名が参加し、長崎森林管理署からは3名が参加しました。山頂では、九州大学の松島教授が「火山活動は、静穏でマグマ噴火の兆候は見られない」との見解を示された上で、「水蒸気爆発や地震などによる崩落には引き続き注意が必要である」と述べられました。

また、国土交通省雲仙砂防管理センターによると、「ドームは、自らの重さで97年の計測から25年

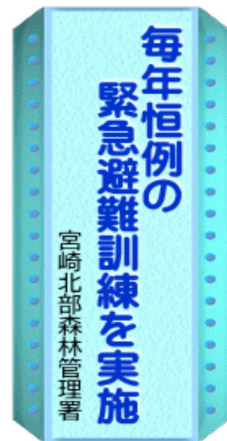


山頂付近で説明を受ける参加者

間で計1・42m島原市側に移動しており、1年間では5cm程移動している」とのことでした。

最後に、砂防管理センター長から「大規模な崩壊が起きた場合には、自治体と協力して住民を素早く避難させる必要がある」と話があり、今回の防災視察登山は、噴火から30年以上経った今でも防災

意識の大切さを改めて考える1日となりました。



5月26日、南海トラフ巨大地震を想定して緊急避難訓練を実施しました。

宮崎北部森林管理署では、健康管理計画書に基づき毎年ひと



浮クッションの装着モデル

り1回以上、緊急避難訓練を行うことにしています。南海トラフ地震とは、静岡県の駿河湾から日向灘まで延びる南海トラフと呼ばれる海溝で、概ね100年から150年間隔で発生しているマグニチュード8〜9クラスの大規模な地震のことで、津波の高さは最大で30mとも予想され、1946年の昭和南海地震を最後



浮クッションを手で持って避難中

に今年で78年が経過しており、今後、30年以内に南海トラフ巨大地震が発生する可能性が高まっていると言われています。

当日の天候は曇り、職員は、避

難場所の幡浦公園まで約1kmを徒歩約14分を掛けて避難用具一式、「浮クッション」(写真参考)を持ち、途中の道路信号機に従いながら避難訓練を実施しました。

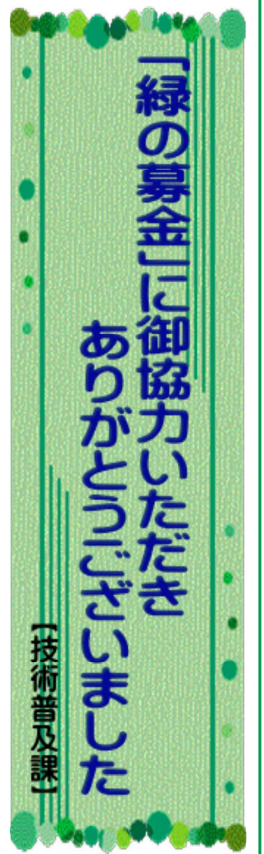
避難経路の確認、緊急持ち出しリュックの所持、履き物の確認、落ち着いた行動など実際の有事に備え、南海トラフ巨大地震に対する意識のモチベーションを継続していくことを確認しました。



訂正して  
お詫びいたします

広報九州令和5年5月10日発行 (No1815号) の記事「新任挨拶どうぞよろしく」で11ページに記載の「屋久島森林管理署 森本茂署長」のご紹介において、「年齢」と「出身地」に誤りがありました。

正しくは「年齢 56歳」、「出身地 熊本県」でしたので訂正してお詫びいたします。



- 一般社団法人 九州林業土木協会様
- 一般社団法人 九州支部
- 森林・林業調査研究所
- 九州支部
- 一般社団法人 林道安全協会九州支所様
- 九州国有林採石協会様
- 九州国有林林業生産協会様
- 株式会社 森和様
- 一般財団法人 日本森林林業振興会
- 熊本支部様



## 山野森林の存在意義を痛感!

末次 賢治さん

英語通訳者として、色々な産

業界で通訳翻訳を担当していま

す。中でも、海や水産に関係が

ある分野で仕事を進めるうち、

海洋の栄養には実はその近隣の

森林や山野の土壌などの状態が

シッカリしてなければ成らない

事を知り、驚くとともに、「あ

ゝ、地球や我々を取り巻く自然つ

てのは山野・大地・海洋と繋が

りがあるんだなあ」と感嘆し

ました。

このようなわけで、森林モニ

ターに応募しました。自分の仕

事にも役立つ森林や森林管理の

知見を得たい為です。

最近、マレーシアのとある

ダム周辺の山林部分の土砂崩れに関する翻訳業務を担当しており、その中で思う事は、日本でも同様なことが起きなければ良

いが、という事です。

私が住む福岡県飯塚市も白旗

(しらはた)山の斜面一帯を削り

ソーラーパネルを数多設置し、

案の定、大雨の際に土砂崩れな

どが発生し、工事現場から流れ

出た土砂混じりの濁った水で住

宅地の道路が冠水する事態が発

生しました。私見では、山野の

森林を保護しておく事のほうが

より我々の生活にプラスになる

と痛感しております。土地面積

の狭い日本国ですから、山野森

林は貴重ですしその存在意義を

広くきちんと認識するべきです

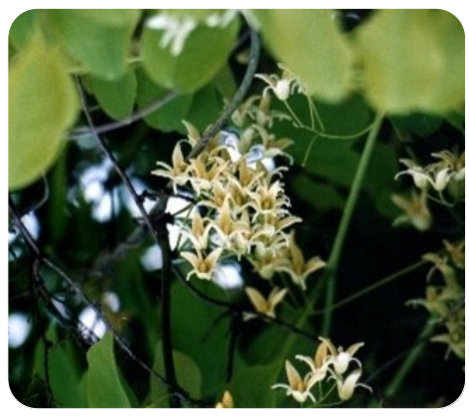
ね。

(福岡県飯塚市在住)

安楽さんの  
樹木よもぢま話



2-3  
【アケビ類】  
一番おいしいのは？  
ムベ



他人の家の生け垣に沿わせるようにムベを植えてあり、ムベが暗紫色に熟す頃は、のどから手が出るほど欲しかったことを思い出します。

山菜の本には果皮も食べるように書いてありますが、昔は果実の中身だけを食べ、私の地域では果皮を食べる習慣



はなかつたようです。

白い花が咲き雌花雄花の判定は、雄花には1本の雄しべがあり、雌花には3本の雌しべがある。そのころ植物の雌しべは1本と誤っていましたが、いろいろ混同していた時期がありました。

アケビに比較して、果実は



大きく、果肉も多く、果汁も多く大変おいしかったことを思い出します。秋の運動会の頃、時々出店で売っているのを見かけました。

語源には朝廷への献上することからのオオニエ：オオムベ：ムベの変化による説と天智天皇の「むべなるかな」の説があるようです。

庭に植えたムベは自然交配が難しいことから花が咲いたときに、雄しべの花粉を雌しべに振りかける人工交配を行います。

安楽 行雄



この地を初めて訪れたのは、4年前の4月になる。雨の中、合計11時間を肌で感じた。その頃の私は、まさかこの地に住むことになるとは思っていませんでした。初めての異動を山の中で聞き、今後の調査に身が入らなかったことを今でもよく覚えている。赴任して2カ月になるが、先日4年ぶりに巨木のもとへ向かった。久しぶりに見ると改めてその雄大さを感じた。この職場に入らなければ2度と経験することができなかったかもしれない。今後もこの土地ならではの貴重な体験ができると思うと嬉しく感じる。

▼生活にも慣れてきたところだが、一つだけできていないことがある。それは14年続けているバスケットボールである。体育館を借りるところから始めなくてはならない。

▼バスケットボールといえば今年8月からワールドカップが日本の沖縄外2カ国で開催される。世界一のアメリカを倒す国が現れるのか、また日本が世界に対しどこまでの力を持っているのか注目したい。

(し)